

インターバンクの声（2017 年 4 月 7 日）

前日は 3 月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨の公表をきっかけにして円買い・ドル売りが進み、昨日は欧州中央銀行 (ECB) のドラギ総裁が今月の理事会での金融政策の据え置きを示唆したことからユーロ売り・ドル買いが進んだ。

しかし、議事要旨の公表後 110 円 20 銭台まで円高が進んだドル円は 111 円を挟む水準まで持ち直し、ドラギ総裁のハト派的な発言後に 50 ポイントほど急落して 1.0630ドルまで売られたユーロも、その後 40 ポイント超反発するなど、円もユーロも 4 月に入ってからレンジ内取引を継続させている。

米 10 債利回りは 2.3% 台で落ち着き、NY 原油価格は 51ドル台での値動きが続いており、売るにも買うにもレンジから外れた水準までは追いかけるのが難しい。

結局市場は習近平中国国家主席とトランプ米大統領の初会談と、米雇用統計待ちの態勢になってしまっている。

当初は通商問題が最大のテーマだと考えられていた米中会談も、北朝鮮問題を優先することになりそう。ニューヨーク市場が閉まるまでに結果が出るか微妙だが、相場を大きく動かす可能性が高いイベント待ちだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。